

表 2.2 近年の水質の状況(相模川)

対象	水域	類型	環境基準点	年度	BOD				pH			DO				SS				大腸菌群数				
					最小値	最大値	平均値	75%値	基準	最小値	最大値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準
河川	相模川上流 (1)	AA	富士見橋	H16	<0.5	1.3	0.8	1	1	7.7	8.2	6.5~8.5	9.3	10	9.8	7.5	<1	6	2	25	1300	33000	11000	50
				H17	<0.5	0.9	0.6	0.6		7.8	8		8.8	10	9.8		<1	3	1		1100	17000	5700	
				H18	<0.5	1.4	0.6	0.7		7.8	8.2		9.3	12	10		<1	15	2		490	17000	6900	
	相模川上流 (2)	A	大月橋	H16	<0.5	2.2	1.1	1.3	2	7.9	8.4	6.5~8.5	9	12	10	7.5	<1	15	3	25	3300	79000	26000	1,000
				H17	<0.5	1.8	0.8	0.8		7.8	8.1		8.8	11	10		<1	4	2		3300	70000	18000	
				H18	0.5	1.5	0.8	1		7.9	8.4		7.6	13	11		<1	5	2		3300	160000	35000	
			桂川橋	H16	<0.5	1.2	0.8	1		7.8	8.1		8.8	12	11		<1	25	4		2300	35000	12000	
				H17	<0.5	1.3	0.9	0.9		7.3	8		8.6	12	11		<1	4	2		3300	17000	9000	
				H18	<0.5	1.3	0.8	0.9		7.7	8.1		8.9	12	10		<1	6	2		3300	92000	21000	
		境川橋	H16	0.5	13	1.9	1.9		7.7	9.2		8.4	13	11		2	19	8		240	49000	13000		
			H17	0.6	5.4	1.3	1.2		7.6	9.6		7.9	16	10		2	23	6		490	33000	12000		
			H18	0.5	4	1.2	1.4		7.7	9.1		8	13	10		2	18	6		220	17000	5800		
		日連大橋	H16	<0.5	5.4	1.3	1.8		7.7	9.3		8.6	14	11		1	15	8		490	13000	4800		
			H17	0.5	7	1.7	2		7.6	9.5		8.4	16	11		1	22	9		700	17000	4500		
			H18	<0.5	4.1	1.1	1.3		7.7	9.2		8.3	14	11		1	11	5		220	33000	5800		
		湖央西部	H16	<0.5	52	3.5	2.1		7.5	9.7		8.1	18	11		1	59	9		220	4900	1900		
			H17	0.5	19	2.4	2.4		7.5	9.5		7.5	18	11		1	34	7		79	11000	2100		
			H18	<0.5	11	1.7	1.7		7.6	9		8.1	13	10		1	16	6		240	7900	2500		
		湖央東部	H16	0.5	8.6	1.6	1.6		7.5	9.4		6.5	16	11		1	23	8		170	17000	4700		
			H17	<0.5	4.2	1.5	2.1		7.5	9.2		6.6	14	10		1	11	5		70	79000	8400		
			H18	<0.5	4	1.4	1.9		7.5	9.1		5	14	9.9		1	10	5		49	11000	2200		
		相模湖大橋	H16	0.5	16	1.8	1.4		7.3	9.4		2.4	16	9.8		2	32	9		110	11000	2400		
			H17	0.5	7	1.5	1.6		7.3	9.1		2.2	14	9.6		2	12	5		130	4900	1500		
			H18	<0.5	15	1.8	1.5		7.4	9.3		4.4	15	9.4		1	18	6		94	17000	4200		
	相模川上流 (3)	A	沼本ダム	H16	0.6	2	1.2	1.4	2	7.5	8.2	6.5~8.5	7.2	11	9.8	7.5	2	16	7	25	330	7900	3100	1,000
				H17	0.7	3.2	1.5	1.7		7.5	8.9		7.1	12	9.9		1	9	5		79	4900	1600	
				H18	0.6	4	1.3	1.4		7.6	8.3		7.8	11	9.5		1	7	5		49	4900	1400	
		名手橋	H16	<0.5	19	2.4	2		7.3	9.4		2.5	18	11		2	35	10		70	17000	3400		
			H17	0.5	52	4.3	2.1		7.6	9.4		8.2	18	11		1	57	10		17	33000	3300		
			H18	<0.5	4.6	1.6	2		7.6	8.7		6.8	12	10		1	19	6		130	17000	2500		
		湖央部	H16	<0.5	3.4	1.3	1.8		7.1	9.1		0.9	14	8.8		1	28	6		130	17000	2300		
			H17	0.7	8.7	1.9	2.3		7.2	9.3		1.4	15	9.6		1	20	6		49	28000	4100		
			H18	<0.5	4	1.3	1.5		7.2	9.4		<0.5	13	8.5		<1	11	5		140	13000	1600		
	相模川中流	A	小倉橋	H16	0.5	1.8	1.2	1.4	2	7.4	8.5	6.5~8.5	8.7	12	11	7.5	2	26	6	25	33	790	310	1,000
				H17	0.6	1.6	1.1	1.3		7.6	8.2		7.7	12	9.9		2	7	4		45	790	240	
				H18	<0.5	1.5	1.1	1.2		7.2	7.7		7.6	12	9.9		1	5	2		23	1100	220	
昭和橋			H16	<0.5	2.4	1.4	1.5		7.5	8.1		7.6	12	10		2	32	6		45	4600	1300		
			H17	0.6	4	1.5	1.6		7.3	8.5		8.1	13	11		1	42	6		130	24000	4600		
			H18	0.6	2.4	1.3	1.6		7.6	8.8		7.8	13	10		1	28	5		45	17000	3100		
相模大橋		H16	<0.5	1.7	1	1.2		7.5	7.9		7.6	12	10		1	32	5		79	4900	1600			
		H17	<0.5	3	1.3	1.6		7.3	8.4		7.3	12	10		1	48	5		130	9200	1700			
		H18	<0.5	2	1.1	1.4		7.4	8.1		8.2	11	10		<1	23	4		110	49000	6400			
寒川取水堰 (上)		H16	<0.5	1.8	1.1	1.3		7.5	8.2		7.8	12	10		1	47	7		240	7900	1600			
		H17	<0.5	3.4	1.1	1.3		7.3	8.5		7.2	13	10		1	95	7		110	3500	1400			
		H18	<0.5	2.1	1.1	1.2		7.3	8.5		7.6	13	10		<1	27	5		220	79000	11000			
相模川下流	C	馬入橋	H16	0.5	3.8	1.4	1.5	5	7.2	8	6.5~8.5	6.8	11	9.1	5	1	33	7	50	330	49000	15000	-	
			H17	0.9	8.3	2.6	2.9		7.2	7.9		6.9	10	8.8		2	13	4		1100	170000	38000		
			H18	0.6	9.9	1.6	1.7		7.3	8.4		4	13	8		1	18	5		330	17000	5300		

出典：公共用水域の水質測定結果(平成16~18年度)

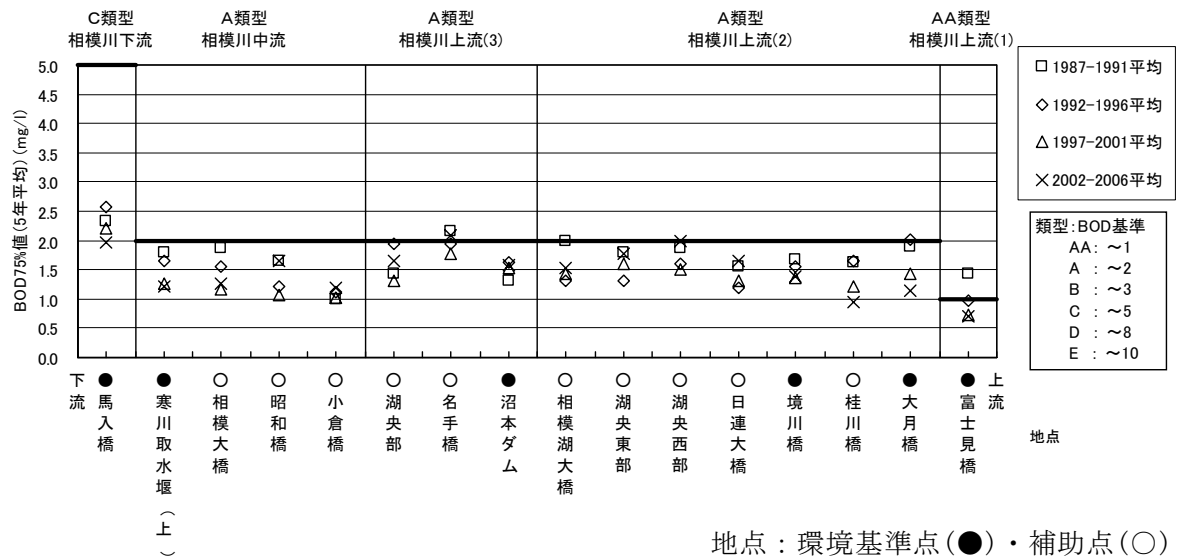


図 2.2 BOD75%値の縦断分布(相模川)

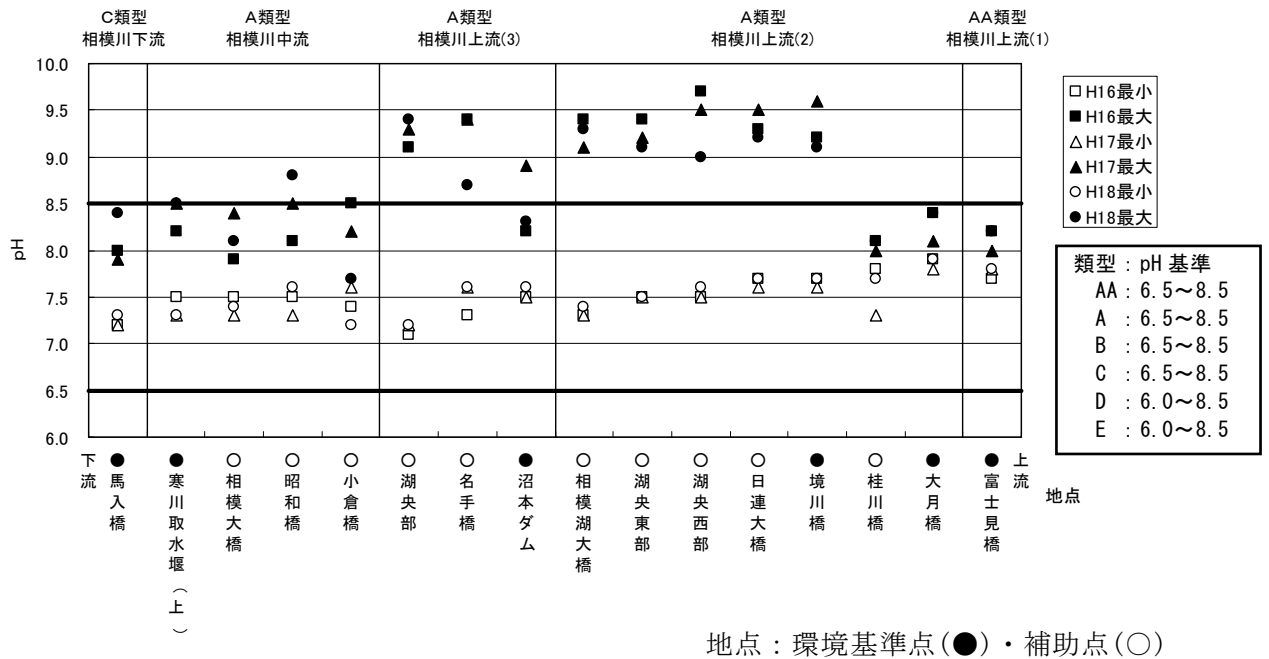
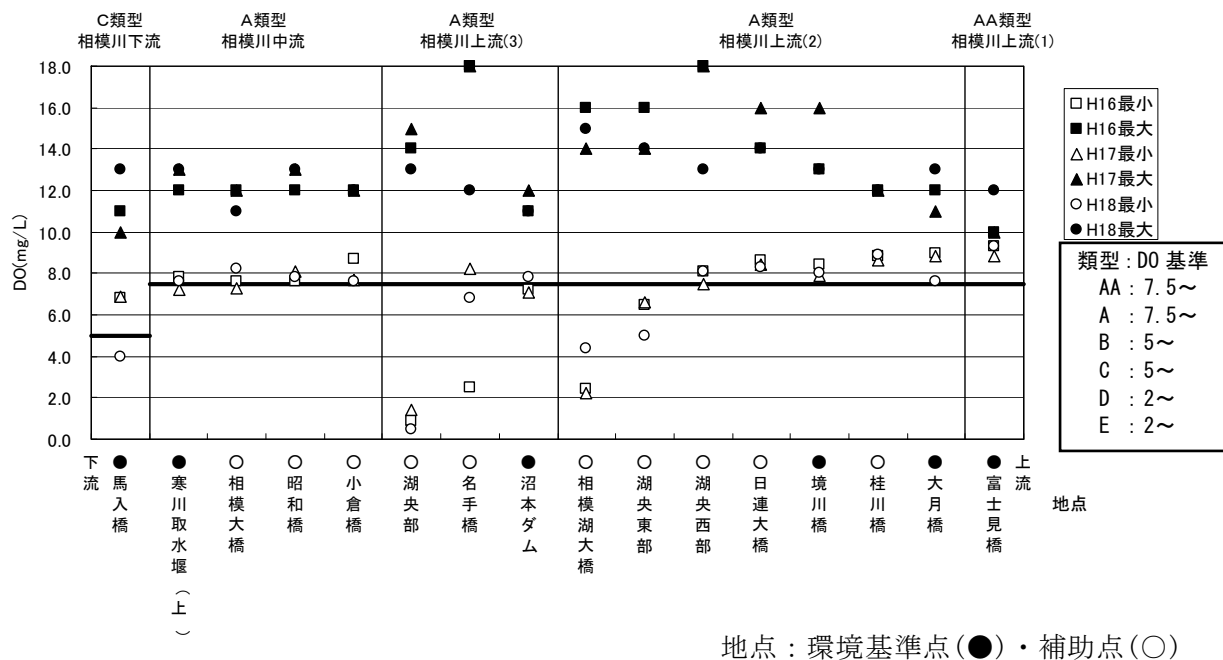
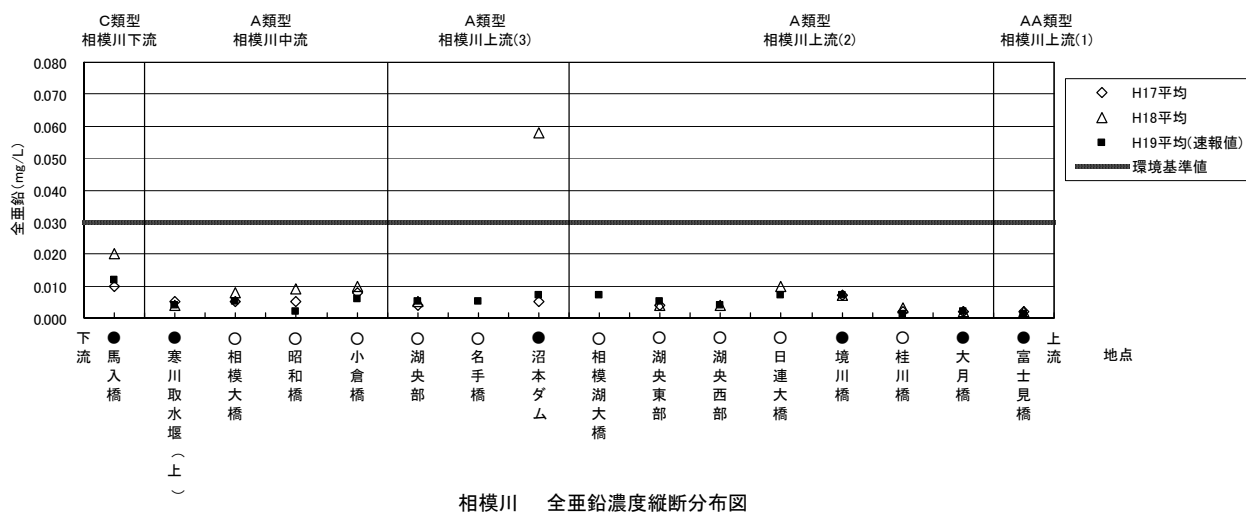


図 2.3 pHの縦断分布(相模川)



出典：公共用水域の水質測定結果

図 2.4 DO の縦断分布(相模川)



※年度平均値が<0.01、<0.03（定量下限値未滿）の地点については、0.01及び0.03とみなしてプロットした。また、定量下限値が<0.05の地点のデータは除外した。

出典：公共用水域の水質測定結果

図 2.5 亜鉛の縦断分布(相模川)

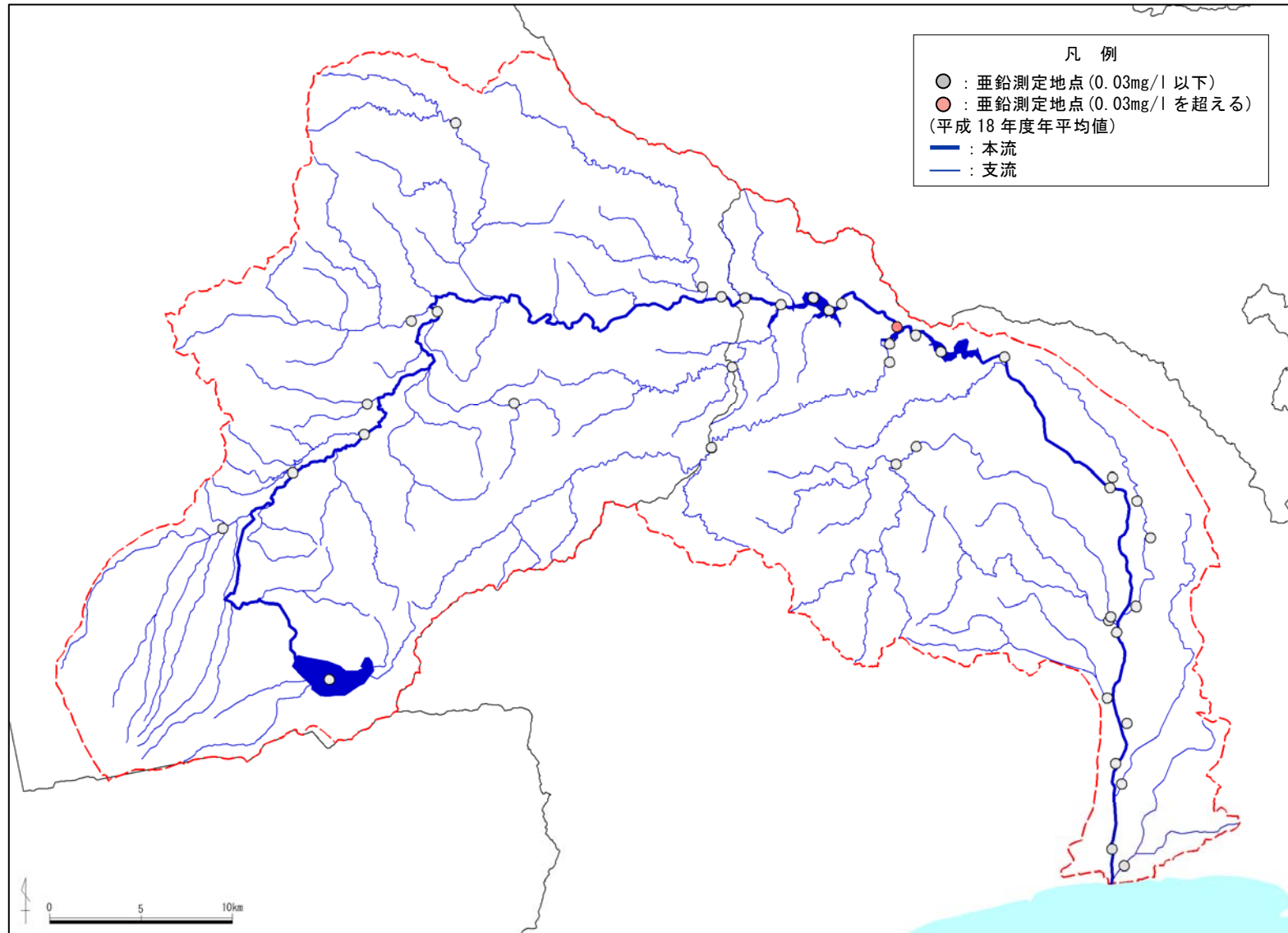
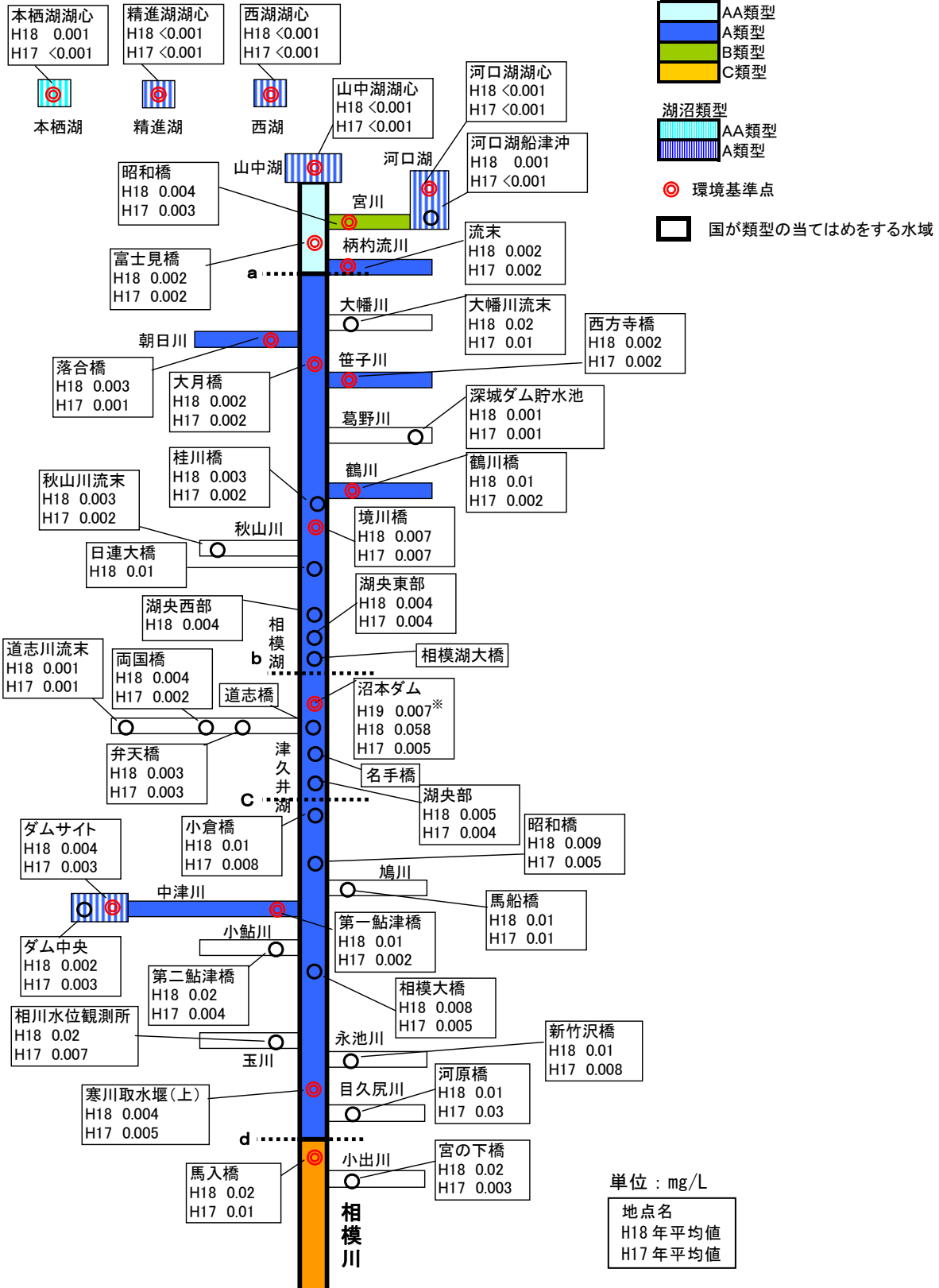


図 2.6 亜鉛測定地点(相模川)

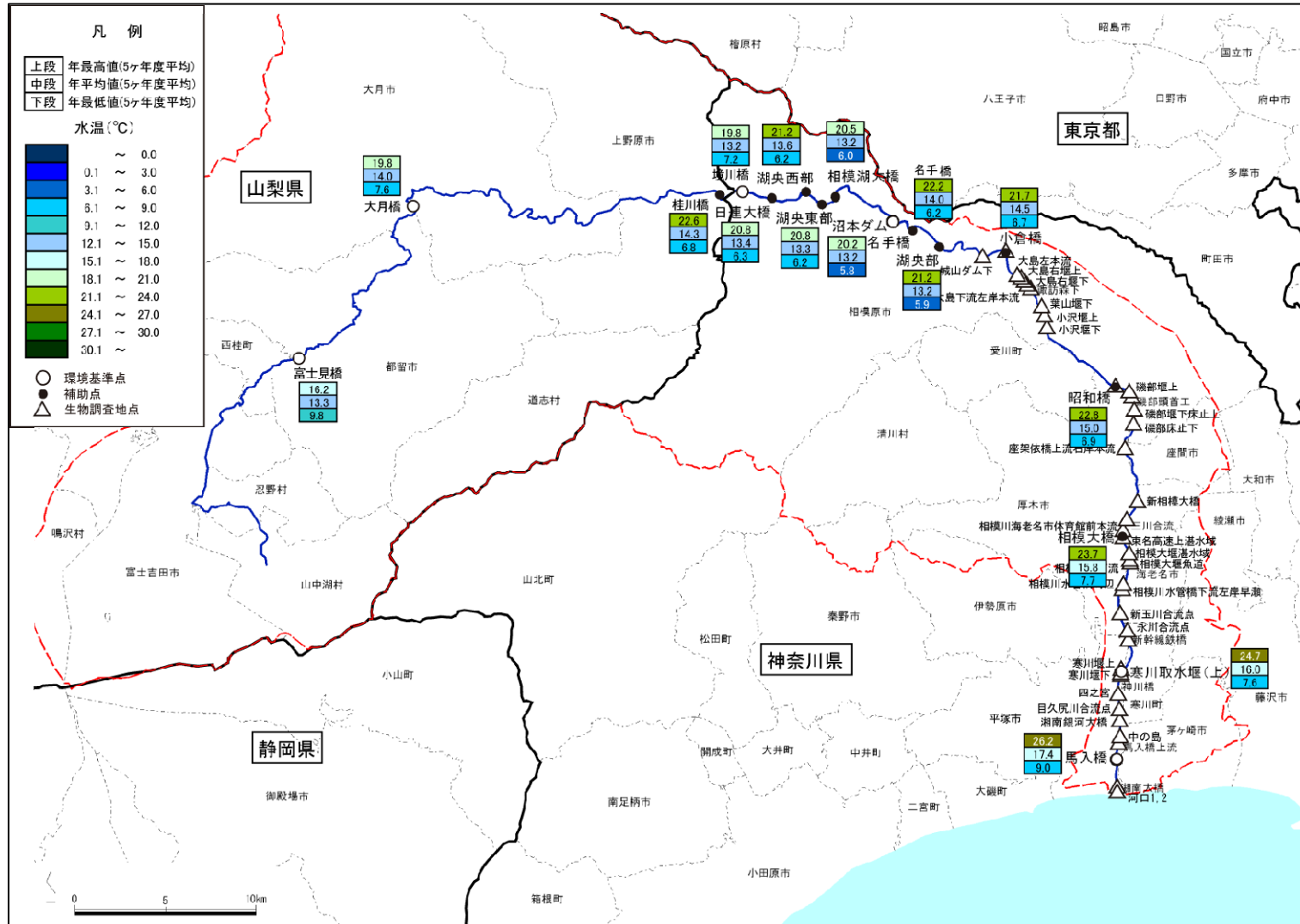
河川	環境基準	類型区分	区分点・区間		
相模川 (桂川を含む)	AA	相模川上流(1)	a	柄杓流川合流点	～ 上流
	A	相模川上流(2)	b	相模湖大橋(相模ダム)	～ a
	A	相模川上流(3)	c	城山ダム	～ b
	A	相模川中流	d	寒川取水堰	～ c
	C	相模川下流	d	寒川取水堰	～ 下流



※沼本ダムの平成19年度の値は速報値である。

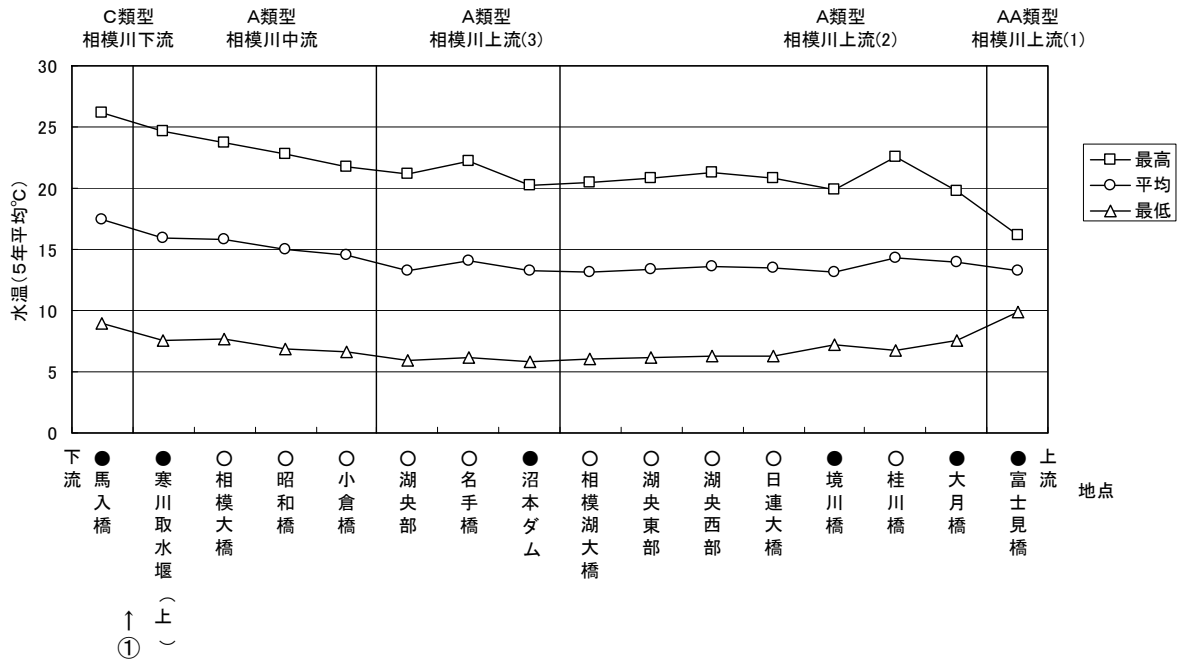
出典：公共用水域の水質測定結果

図 2.7 亜鉛検出状況(相模川)



出典：公共用水域の水質測定結果

図 2.8 水温(相模川)



NO	河川	都道府県	処理場名	放流水質(H16年平均)	
				水温(°C)	BOD(mg/L)
①	相模川	神奈川県	四之宮管理センター	22	150

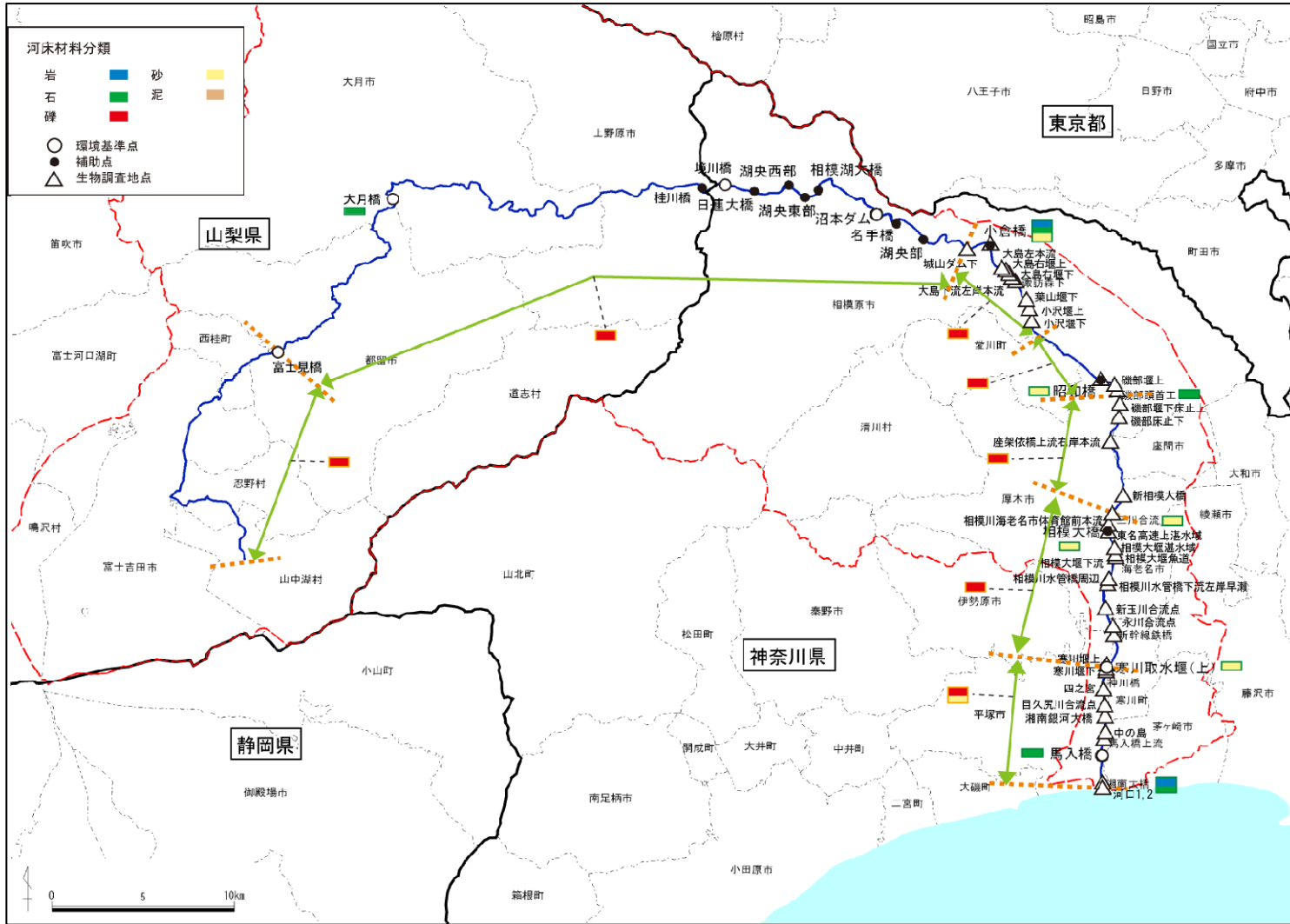
※最高・平均・最低は、平成14～18年度の公共用水域水質測定結果より、各年度において月平均水温の年最高値・年平均値・年最低値を求め、5カ年でそれぞれ平均した値である。

地点：環境基準点(●)・補助点(○)

出典：公共用水域の水質測定結果

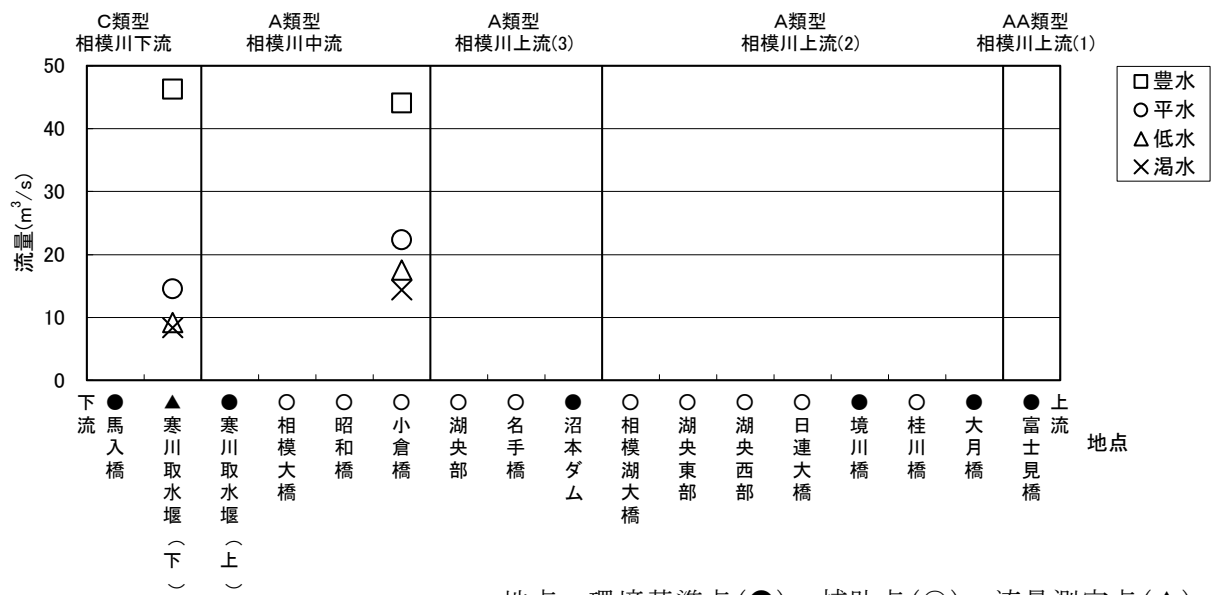
平成17年度版 下水道統計 第62号(社)日本下水道協会、H19)

図 2.9 水温縦断分布(相模川)



出典： は、平成 15 年度環境省調査、 「第 71 回河川整備基本方針検討小委員会 参考資料 1-1 相模川水系の流域及び河川の概要(案)」(平成 19 年 7 月 11 日)による

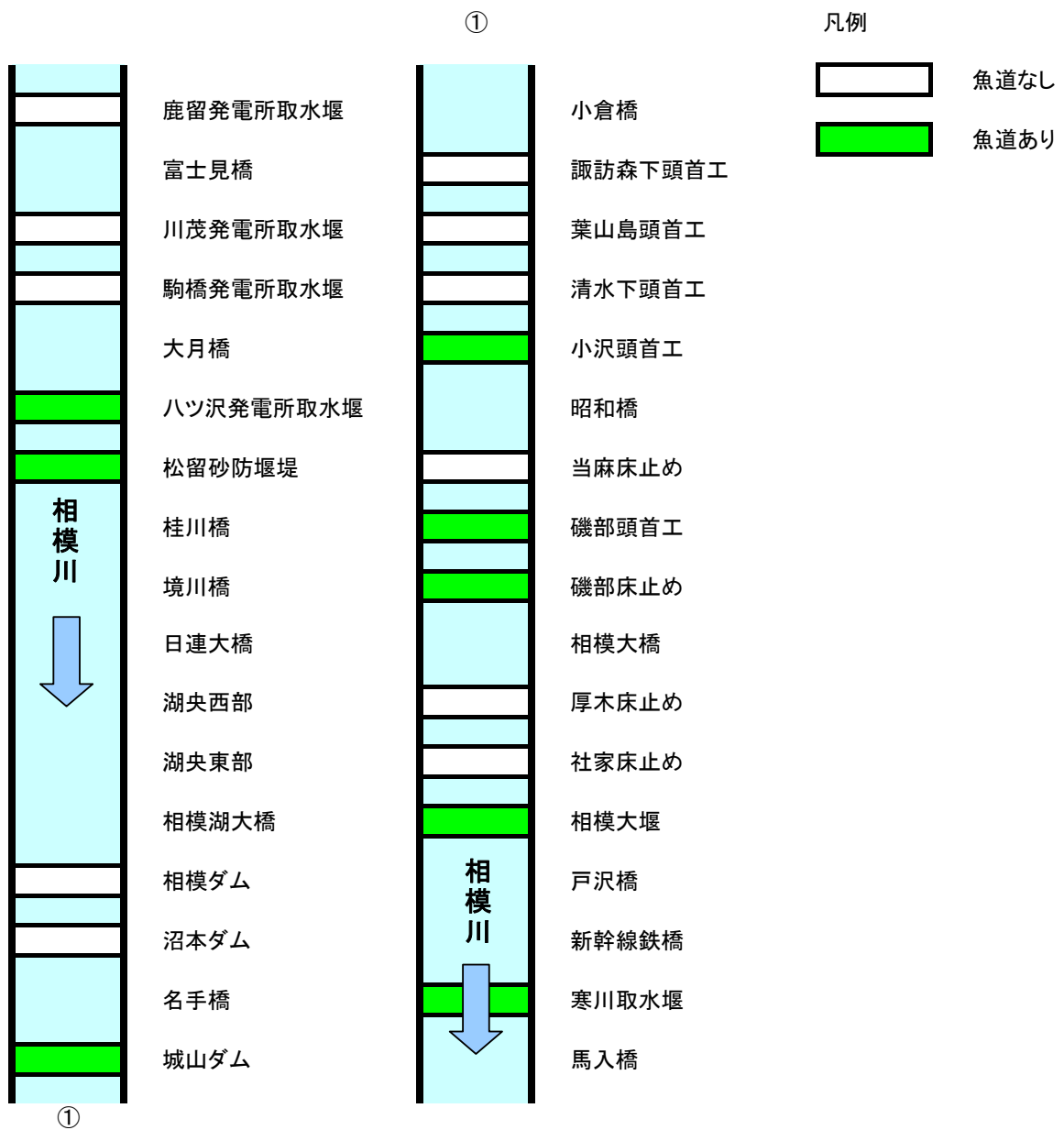
図 2.10 河床材料(相模川)



地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

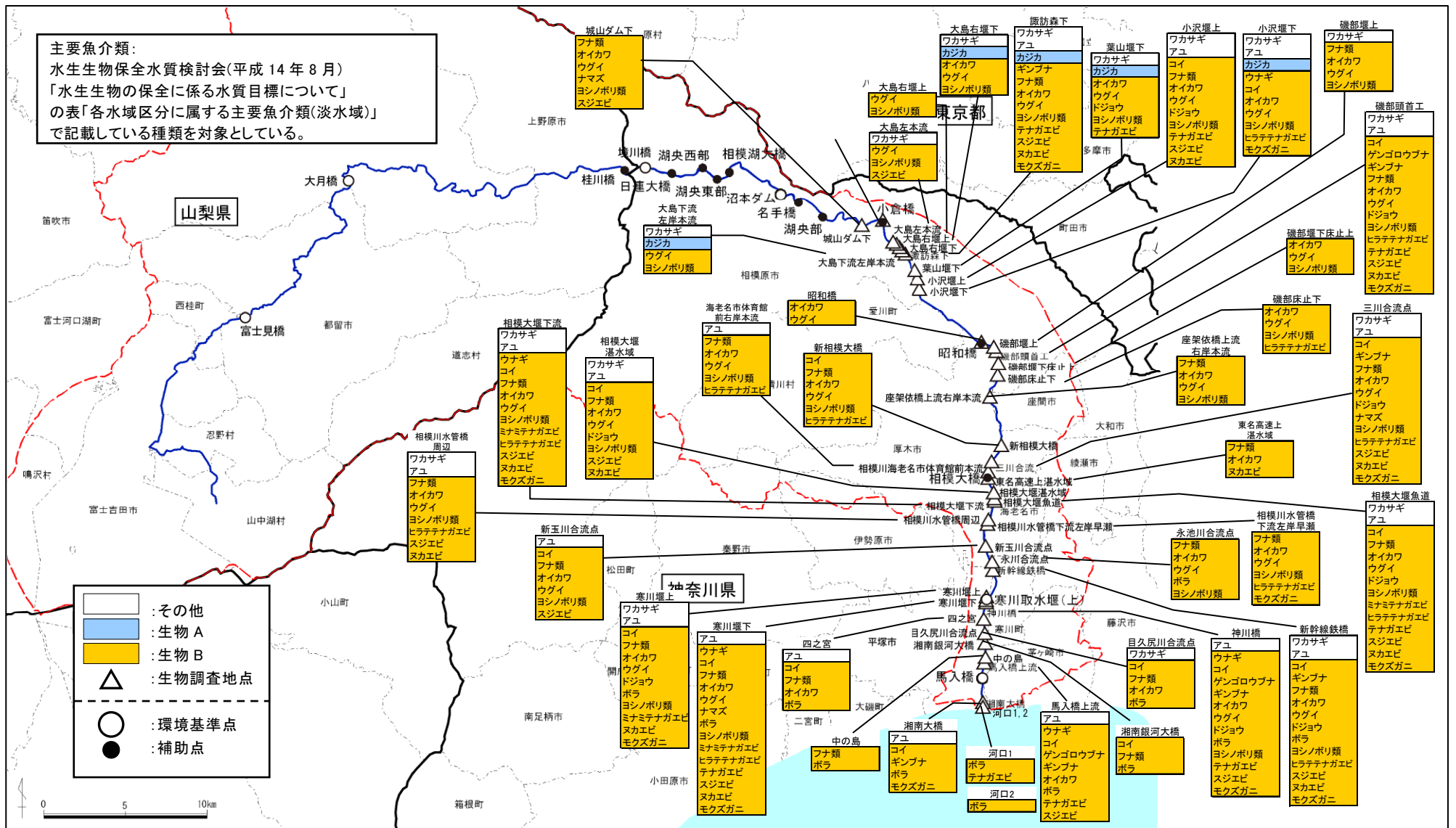
出典：第71回河川整備基本方針検討小委員会 参考資料6-1「相模川水系河川整備基本方針 流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する資料(案)」(平成19年7月11日)

図 2.11 流量の縦断分布(相模川)



出典：国土交通省資料等を基に環境省が作成

図 2.12 主な河川横断工作物(相模川)



出典：国土交通省「河川水辺の国勢調査」他

図 2.13 主要魚介類の確認状況(相模川)

表 2.3(1) 魚介類の確認状況(既存調査結果)(相模川)

調査地点				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	14	18	19	20	21
項目・分類・科・種名				河口2*2	河口1*2	湘南大橋*1	馬入橋上流*1	中の島*2	湘南銀河大橋*2	目久尻川合流点*2	四之宮*2	神川橋*1	寒川堰下*2	寒川堰上*2	新幹線鉄橋*1	永池川合流点*2	新玉川合流点*2	相模川水管橋下流
調査年度				1999	1999	2002	2002	1999	1999	1999	1999	2002	1999-2003*3	1999-2003*3	2002	1999	1999	1999
生物A	魚類	カシカ科	カシカ															
その他	魚類	キュウリウオ科	ウカサギ															
		アユ科	アユ															
生物B	魚類	コイ科	ウナギ															
		コイ科	コイ															
		コイ科	ゲンゴロウフナ															
		コイ科	キンブナ															
		コイ科	フナ属の一種															
		コイ科	オイカワ															
		ドジョウ科	ウグイ															
		ナマズ科	ドジョウ															
		ウナギ科	ナマズ															
		ボラ科	ボラ															
		ハゼ科	シマヨシノボリ															
		ハゼ科	オオヨシノボリ															
		ハゼ科	トウヨシノボリ															
	甲殻類	テナガエビ科	ミナミテナガエビ															
		テナガエビ科	ヒラテナガエビ															
		テナガエビ科	テナガエビ															
		テナガエビ科	スジエビ															
		ヌマエビ科	ヌマエビ															
その他	魚類	イワガニ科	モスガニ															
		ヤツクナギ科	スベキツメ															
		アケエ科	アケエ															
		ニシン科	サカハ															
		ニシン科	コシロ															
		コイ科	キンギョ															
		コイ科	ウタカ															
		コイ科	ハス															
		コイ科	カラムツ															
		コイ科	アブラハヤ															
		コイ科	モツゴ															
		コイ科	ビワヒカイ															
		コイ科	ムギツク															
		コイ科	タモロコ															
		コイ科	カマツカ															
		コイ科	ニクイ															
		コイ科	イトモロコ															
		コイ科	スコモロコ															
		コイ科	スコモロコ属															
		ドジョウ科	シマドジョウ															
		ゴンズイ科	ゴンズイ															
		トウゴロウイワシ科	ベヘレイ															
		メダカ科	メダカ															
		ヨウジウオ科	ヨウジウオ															
		ヨウジウオ科	イッセンヨウジ															
		カマキリ科	カマキリ															
		スズキ科	スズキ															
		シマイサギ科	コヒサギ															
		ユコイ科	ユコイ属															
		サンフィッシュ科	ブルーギル															
		サンフィッシュ科	オオクチバス															
		キス科	シロギス															
		アジ科	イケカツオ															
		アジ科	カスミアジ															
		アジ科	ロウニンアジ															
		ヒイラギ科	ヒイラギ															
		クロサギ科	イトヒキサギ															
		タニ科	クロダイ															
		ニベ科	ニベ															
		ボラ科	シログチ															
		ボラ科	セシボラ															
		ボラ科	ナンヨウボラ															
		ツバメコノシロ科	ツバメコノシロ															
		ハゼ科	ドンコ															
		ハゼ科	ボウスハゼ															
		ハゼ科	ミミズハゼ															
		ハゼ科	スミウキゴリ															
		ハゼ科	ウキゴリ															
		ハゼ科	マハゼ															
		ハゼ科	ヒナハゼ															
		ハゼ科	アハゼ															
		ハゼ科	ヨクラハゼ															
		ハゼ科	ヨシノボリ属の一種															
		ハゼ科	アカオビシマハゼ															
		ハゼ科	ヌマチチブ															
		ハゼ科	Tridentiger属の一種															
		ハゼ科	サツキハゼ															
		タイワンドジョウ科	カムルチー															
		ウシノシタ科	クロウシノシタ															
		ワグ科	ワグ															
	甲殻類	クルマエビ科	クルマエビ属															
		クルマエビ科	サルエビ															
		テナガエビ科	Macrobrachium属															
		テナガエビ科	クワソシエビ															
		テナガエビ科	スジエビモドキ															
		テナガエビ科	Palaemon属															
		ヌマエビ科	ヤマトヌマエビ															
		ヌマエビ科	ミソレヌマエビ															
		ヌマエビ科	ヌマエビ															
		アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ															
		クロベンケイガニ科	クロベンケイガニ															
		イワガニ科	アジハラガニ															
		イワガニ科	ケブサイロガニ															
		スナガニ科	アリアケモドキ															
		スナガニ科	スナガニ科															
		サワガニ科	サワガニ															
		カワナガニ科	カワナガニ															
		カワナガニ科	サカマキガイ															

出典：*1 国土交通省「河川水辺の国勢調査」
 *2 相模川水系魚類生息状況調査報告書
 *3：1999, 2000, 2003 調査結果
 *4：1999, 2000, 2002, 2003 調査結果
 *5：1999, 2003 調査結果

表 2.3(2) 魚介類の確認状況(既存調査結果)(相模川)

項目・分類・科・種名		調査地点													
		22	24	28	30	34	35	36	41	42	43	44	45	46	
		相模川水管橋周辺*2	相模大堰下流*2	相模大堰魚道*2	相模大堰湛水域*2	東名高速上湛水域*2	海老名市体育館前 右岸本流*2	三川合流点*1	新相模大橋*2	右岸本流*2	座架依橋上流	磯部床下*2	磯部堰下床止上*2	磯部頭首工*1	磯部堰上*2
		2004-2005	1999-2003*3	2004-2005	1999-2003*3	2000	1999	1999-2003*4	1999	1999	1999	1999	2002	1999	
生物A	魚類	カジカ科	カジカ												
その他	魚類	キヌクリウオ科	ワカサギ												
生物B	魚類	アズ科	アユ												
		ウナギ科	ウナギ												
		コイ科	ゲンゴロウブナ												
		コイ科	キンブナ												
		コイ科	フナ属の一種												
		コイ科	オイカワ												
		ドジョウ科	ウグイ												
		ナマズ科	ドジョウ												
		ウナギ科	ナマズ												
		ボラ科	ボラ												
ハゼ科	シマヨシノボリ														
ハゼ科	オオヨシノボリ														
ハゼ科	トウヨシノボリ														
甲殻類	魚類	テナガエビ科	ミナミテナガエビ												
		テナガエビ科	ヒラテナガエビ												
		テナガエビ科	テナガエビ												
		テナガエビ科	スジエビ												
		ヌマエビ科	ヌマエビ												
		イワガニ科	モクスガニ												
		ヤツメウナギ科	スナヤツメ												
		アカエイ科	アカエイ												
		ニシン科	ザッパ												
		ニシン科	コノシロ												
コイ科	キンギョ														
コイ科	ワタカ														
コイ科	ハス														
コイ科	カウムツ														
コイ科	アブラハヤ														
コイ科	モツゴ														
コイ科	ビワヒガイ														
コイ科	ムギツク														
コイ科	タモロコ														
コイ科	カマツカ														
コイ科	ニオイ														
コイ科	イトモロコ														
コイ科	スゴモロコ														
コイ科	スゴモロコ属														
ドジョウ科	シマドジョウ														
コンスイ科	コンスイ														
トウゴロウイワシ科	ベヘレイ														
メダカ科	メダカ														
ヨウジウオ科	ヨウジウオ														
ヨウジウオ科	イツセンヨウジ														
カジカ科	カマキリ														
スズキ科	スズキ														
シマイサキ科	コトヒキ														
コヨイ科	コヨイ属														
サンフィッシュ科	ブルーギル														
サンフィッシュ科	オオクチバス														
サケ科	シロギス														
アサ科	イケカツオ														
アサ科	カスミアジ														
アジ科	ロウニンアジ														
ヒイラギ科	ヒイラギ														
クロサギ科	イトヒキサギ														
タイ科	クロダイ														
ニベ科	ニベ														
ニベ科	シログチ														
ボラ科	セスシボラ														
ボラ科	ナンヨウボラ														
ツバメコノシロ科	ツバメコノシロ														
ハゼ科	トシ														
ハゼ科	ボウズハゼ														
ハゼ科	ミスハゼ														
ハゼ科	スミウキゴリ														
ハゼ科	ウキゴリ														
ハゼ科	マハゼ														
ハゼ科	ヒナハゼ														
ハゼ科	アベハゼ														
ハゼ科	ゴクラクハゼ														
ハゼ科	ヨシノボリ属の一種														
ハゼ科	アカオビシマハゼ														
ハゼ科	ヌマチチブ														
ハゼ科	Tridentiger属の一種														
ハゼ科	サツキハゼ														
クワッドジョウ科	カムルチー														
クワッドジョウ科	クロウシシタ														
クワ科	クサフグ														
甲殻類	魚類	クルマエビ科	クルマエビ属												
		クルマエビ科	サルエビ												
		テナガエビ科	Macrobrachium属												
		テナガエビ科	イソスジエビ												
		テナガエビ科	スジエビモドキ												
		テナガエビ科	Palaemon属												
		ヌマエビ科	ヤマトヌマエビ												
		ヌマエビ科	ミノレスヌマエビ												
		ヌマエビ科	ヌマエビ												
		ヌマエビ科	ヌマエビ												
アマガサガニ科	アマガサガニ														
クロベンケイガニ科	クロベンケイガニ														
イワガニ科	アシハラガニ														
イワガニ科	ケフサイガニ														
スナガニ科	アリアケモドキ														
スナガニ科	スナガニ科														
サウガニ科	サウガニ														
カワニナ科	カワニナ														
カワニナ科	サカマキガイ														

出典：*1 国土交通省「河川水辺の国勢調査」
 *2 相模川水系魚類生息状況調査報告書
 *3：1999, 2000, 2003 調査結果
 *4：1999, 2000, 2002, 2003 調査結果
 *5：1999, 2003 調査結果

表 2.3(3) 魚介類の確認状況(既存調査結果)(相模川)

項目・分類・科・種名		調査地点												
		47	48	52	55	56	57	58	59	60	61	62		
		昭和橋*2	小沢堰下*2	小沢堰上*2	葉山堰下*2	大島下流左岸本流*2	諏訪森下*1	大島左本流*2	大島右堰下*2	大島石堰上*2	小倉橋*2	城山ダム下*2		
		1999	1999-2003*3	1999-2003*5	1999	1999	2002	1999	1999	1999	1999	1999		
生物A	魚類	カジカ科	カジカ ¹⁾											
生物B	魚類	キウウオ科	ウカサギ											
		アユ科	アユ											
甲殻類	魚類	コイ科	ウナギ											
		コイ科	コイ											
		コイ科	ゲンゴロウフナ											
		コイ科	キンフナ											
		コイ科	フナ属の一種											
		コイ科	オイカワ											
		ドジョウ科	ウグイ											
		ナマズ科	ドジョウ											
		ウナギ科	ナマズ											
		ボラ科	ボラ											
		ハゼ科	シマヨシノボリ											
		ハゼ科	オオヨシノボリ											
		ハゼ科	トウヨシノボリ											
		テナガエビ科	ミナミテナガエビ											
		テナガエビ科	ヒラテナガエビ											
		テナガエビ科	テナガエビ											
		テナガエビ科	スジエビ											
		ヌマエビ科	ヌマエビ											
		イワカニ科	モクスカニ											
		その他	魚類	ヤツメウナギ科	スナヤツメ									
アカエイ科	アカエイ													
		コシノ科	サツバ											
		ニシン科	コノシロ											
		コイ科	キンギョ											
		コイ科	ワタカ											
		コイ科	ハス											
		コイ科	カワムツ											
		コイ科	アブラハヤ											
		コイ科	モツゴ											
		コイ科	ビワビガイ											
		コイ科	ムギツク											
		コイ科	タモロコ											
		コイ科	カマツカ											
		コイ科	ニギ											
		コイ科	イトモロコ											
		コイ科	スコモロコ											
		コイ科	スコモロコ属											
		ドジョウ科	シマドジョウ											
		コンズイ科	コンズイ											
		トウゴロウイワシ科	ベヘレイ											
		メダカ科	メダカ											
		ヨウジウオ科	ヨウジウオ											
		ヨウジウオ科	イッセンヨウジ											
		カジカ科	カマキリ											
		スズキ科	スズキ											
		シマイサギ科	コヒメ											
		コノシロ科	コノシロ属											
		サンフィッシュ科	ブルーキール											
		サンフィッシュ科	オオクチバス											
		キス科	シロキス											
		アジ科	イケカツオ											
		アジ科	カスミアジ											
		アジ科	ロウニンアジ											
		ヒラギ科	ヒラギ											
		クロサギ科	イトヒキサギ											
		タイ科	クロダイ											
		ニベ科	ニベ											
		シロダテ科	シロダテ											
		ボラ科	セウシボラ											
		ボラ科	サンヨウボラ											
		ツバメコノシロ科	ツバメコノシロ											
		ハゼ科	ドンコ											
		ハゼ科	ボウスハゼ											
		ハゼ科	ミスハゼ											
		ハゼ科	スミウキゴリ											
		ハゼ科	ウキゴリ											
		ハゼ科	マハゼ											
		ハゼ科	ヒナハゼ											
		ハゼ科	アベハゼ											
		ハゼ科	ヨシノボリ属の一種											
		ハゼ科	アカガビシマハゼ											
		ハゼ科	ヌマチチブ											
		ハゼ科	Tidentiger属の一種											
		ハゼ科	サツキハゼ											
		タイワンドジョウ科	カムルチー											
		ウシノシタ科	クロウシノシタ											
		フグ科	クサフグ											
		甲殻類	甲殻類	クルマエビ科	クルマエビ属									
				クルマエビ科	サルエビ									
				テナガエビ科	Macrobrachium属									
				テナガエビ科	イノスジエビ									
				テナガエビ科	スジエビモドキ									
				テナガエビ科	Palaeomon属									
				ヌマエビ科	ヤマヌマエビ									
				ヌマエビ科	ミノルヌマエビ									
				ヌマエビ科	ヌマエビ									
				アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ									
				クロベンケイガニ科	クロベンケイガニ									
				イワガニ科	アシハラガニ									
				イワガニ科	ケフサイソガニ									
				スナガニ科	アリアケモドキ									
				スナガニ科	スナガニ科									
				サワガニ科	サワガニ									
				カワナガニ科	カワナガニ									
				カワナガニ科	サガマキガイ									

出典：*1 国土交通省「河川水辺の国勢調査」
 *2 相模川水系魚類生息状況調査報告書
 *3：1999, 2000, 2003 調査結果
 *4：1999, 2000, 2002, 2003 調査結果
 *5：1999, 2003 調査結果

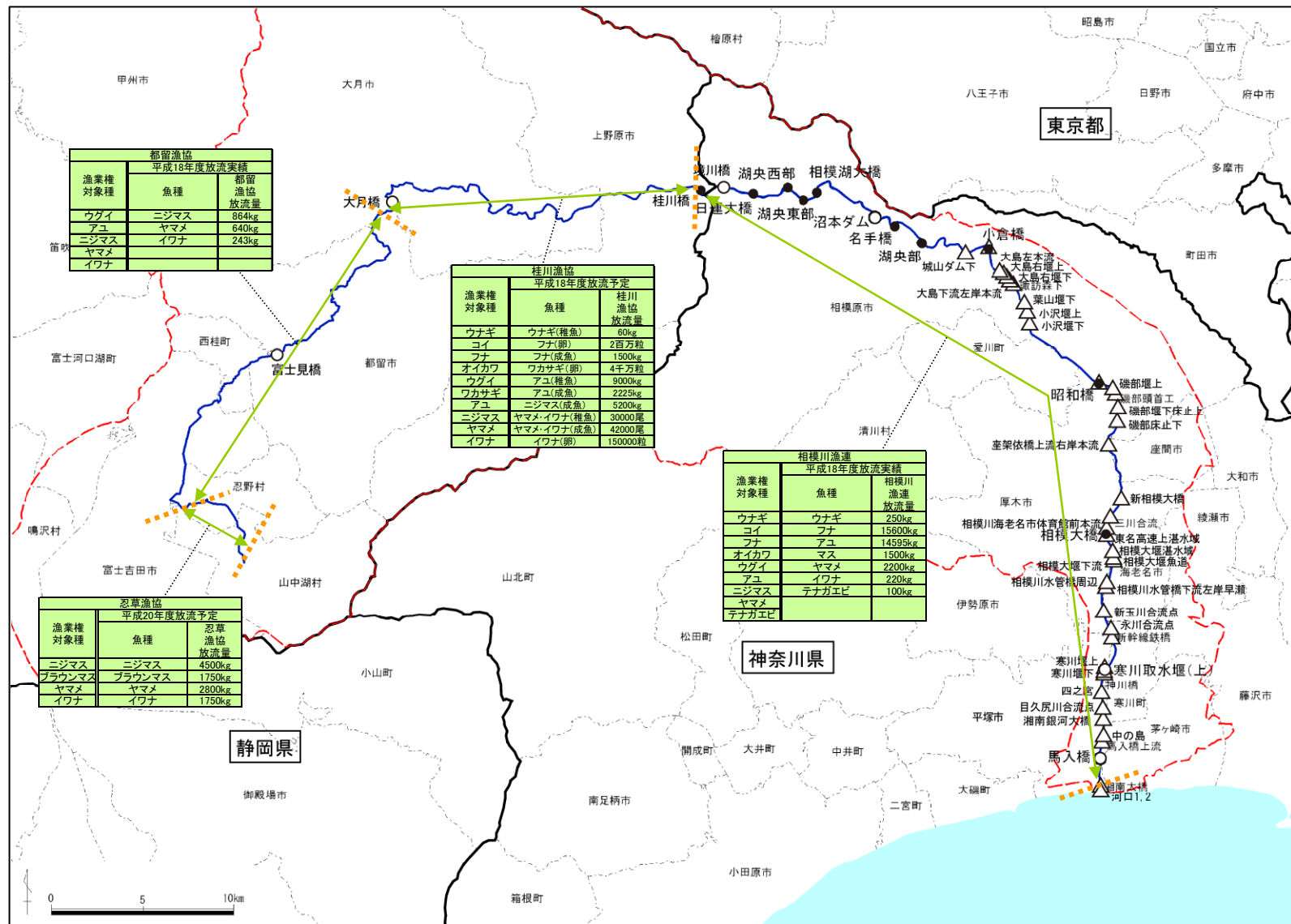


図 2.14 漁業権設定・魚類等放流状況(相模川)

2.2 富士川

(1) 水域の概況

富士川は、その源を山梨県北杜市と長野県諏訪郡富士見町境の鋸岳(標高 2,685m)に発し、途中多くの支流を合わせながら山間溪谷部を抜け、甲府盆地を南流し、盆地の南端山梨県西八代郡市川三郷町において笛吹川を合わせて再び山間溪谷部に入り、静岡県富士市と静岡市の境において駿河湾に注ぐ、幹川流路延長 128km、流域面積 3,990km²の一級河川である。

その流域は長野県、山梨県及び静岡県の3県にまたがり、豊かな自然環境を有しており、富士川と周囲の山々が醸し出す風情は、急流と清流が相まって、優れた景観美を造り、その流れは県内外の人々に憩いと安らぎを与え、広く愛されている。流域の土地利用は、山林が約 68%、水田や果樹園等の農地が約 27%、宅地等市街地が約 5%となっている。

(出典：富士川水系河川整備基本方針 平成 15 年 2 月 国土交通省河川局)

(2) 水質の状況

1) 水域類型指定状況 (図 2.15)

既存生活環境項目(BOD、COD、全窒素、全リン等の水生生物保全環境基準を除く項目)の水域類型指定状況は、富士川(1)、(2)、(3)、(4)の4区分で、富士川(1)がAA類型、それより下流がA類型に指定されている。

2) 水質汚濁の状況 (表 2.5、図 2.16～図 2.18)

BOD75%値の5年平均で見ると、一般的に水質の改善傾向が見られており、近年(平成 14～18 年度)、富士川(3)の富士橋地点(環境基準点)では、環境基準を上回る年もあるが、その他の地点では環境基準を満たしている。

3) 亜鉛の水質の状況 (図 2.19～図 2.21)

平成 16～18 年度の調査の結果、年平均の全亜鉛濃度は、全地点とも 0.01mg/L 以下である。

富士川本川における亜鉛排出事業所としては下水処理場・精密機器器具製造業・食品製造業等、全体で 27 件存在しており、そのうち当該水域へ直接放流する事業所(PRTR 対象事業所)は 10 件で、年度排出量が 1000kg 超・100kg 超・10kg 超・1kg 超・1kg 以下の順で見ると 1 件・4 件・1 件・4 件・0 件となっている(出典：平成 18 年度水質汚濁物質排出量総合調査データ、平成 18 年度 PRTR データ)。

(3) 水温の状況 (図 2.22、図 2.23)

上流の富士川(1)では平均水温 12～13℃程度であるが、下流に向かうに従って上昇し、富士川(2)の三郡西橋より下流で平均水温 16℃程度となっている。

(4) 水域の構造等

1) 河床材料 (図 2.24)

富士川における主な河床材料は、全川において礫や砂が主体となっている。

2) 流量 (図 2.25)

低水流量は、船山橋で 10m³/s 程度、清水端で 48m³/s 程度、北松野で 25m³/s 程度となっている。

3) 主な河川構造物 (図 2.26)

堰として、四ヶ村堰、高岩堰、日軽金塩之沢取水堰堤、日軽金十島取水堰及び四ヶ郷堰があり、四ヶ村堰以外には魚道が設置されている。また、頭首工としては、上堰頭首工及び一本杉頭首工があり、魚道が設置されている。

(5)魚介類の生息状況（表 2.4、表 2.6、図 2.27、図 2.28）

1) 冷水性の魚介類

(a)基礎情報

冷水性の魚介類は、河川水辺の国勢調査(国土交通省)によると、蓬来橋でヤマメが、南部橋、船山橋及び上三吹でアマゴが確認されている。

(b)ヒアリング情報

表 2.1 のとおりとする。

2) 温水性の魚介類

(a)基礎情報

温水性の魚介類は、河川水辺の国勢調査(国土交通省)によると、上流から下流まで一般的に、コイ、フナ類、オイカワ、ウグイ、ドジョウ、ナマズ等が確認されている。

(b)ヒアリング情報

表 2.1 のとおりとする。

3) その他

アユは、河川水辺の国勢調査(国土交通省)によると、上流から下流まで一般的に確認されている。

また、富士川においては山梨県内に内水面の漁業権が設定されており、アユ・アマゴ・イワナ・ウナギ等の放流も実施されているが、静岡県内には漁業権が設定されていない。

表 2.4 魚介類生息状況に関する学識者や漁業関係者への
ヒアリング結果の整理(富士川)

項目	ヒアリング結果 (回答機関名)	
	山梨県 (上流)	静岡県 (下流)
魚介類の 生息範囲	<p>①代表的及び特徴的な魚介類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アマゴ、イワナ、アユ等があげられる (峡北漁協)。 <p>②イワナ・ヤマメ類等の生息範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アマゴやイワナは主に支流に生息する。イワナは標高 1000m 以上の上流域に生息する。河川残留型のアマゴは本川では甲府盆地からみられるようになる (山梨県水産試験場)。 <p>③コイ・フナ類等の生息範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全域で生息している (峡北漁協)。 	<p>①代表的及び特徴的な魚介類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アユがあげられる (静岡県水産技術研究所)。 <p>②イワナ・ヤマメ類等の生息範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内については、ヤマトイワナは生息していない。支流には非在来型のアメマスが生息しているので、その魚が本流に下りているか、どうかは分からない。アマゴの生息域であるが本川では確認していない。支流では生息しているところがある (静岡県水産技術研究所)。 <p>③コイ・フナ類等の生息範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査をしていないので分からない (静岡県水産技術研究所)。
魚介類等 資源の保全	<p>①放流魚種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウナギ、アユ、アマゴ、ニジマス、イワナを放流 (峡北漁協) ・富士川はヤマメの分布域ではないが、アマゴの種苗の代わりとしてヤマメの種苗が放流されることがある (山梨県水産試験場) 	<p>①放流魚種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本流では漁協がないため行われていない。支流の芝川、稲子川、稲瀬川、境川は芝川観光漁協が管理しており、アユ、アマゴ、ニジマスを放流しているので、こういった個体が本流へ下っている可能性もある。また、遊魚者が自主的に放流していることがあるかもしれないが、確認していない (静岡県水産技術研究所)。
河川環境	<p>①堰・ダム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・境川周辺の堰が遡上を阻害するものと考えられる (山梨県水産試験場)。 	<p>①河床材料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に砂礫である (静岡県水産技術研究所)。 <p>②堰・ダム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四ヶ郷堰堤が魚類の生息に影響を及ぼしていると考えられる (静岡県水産技術研究所)。

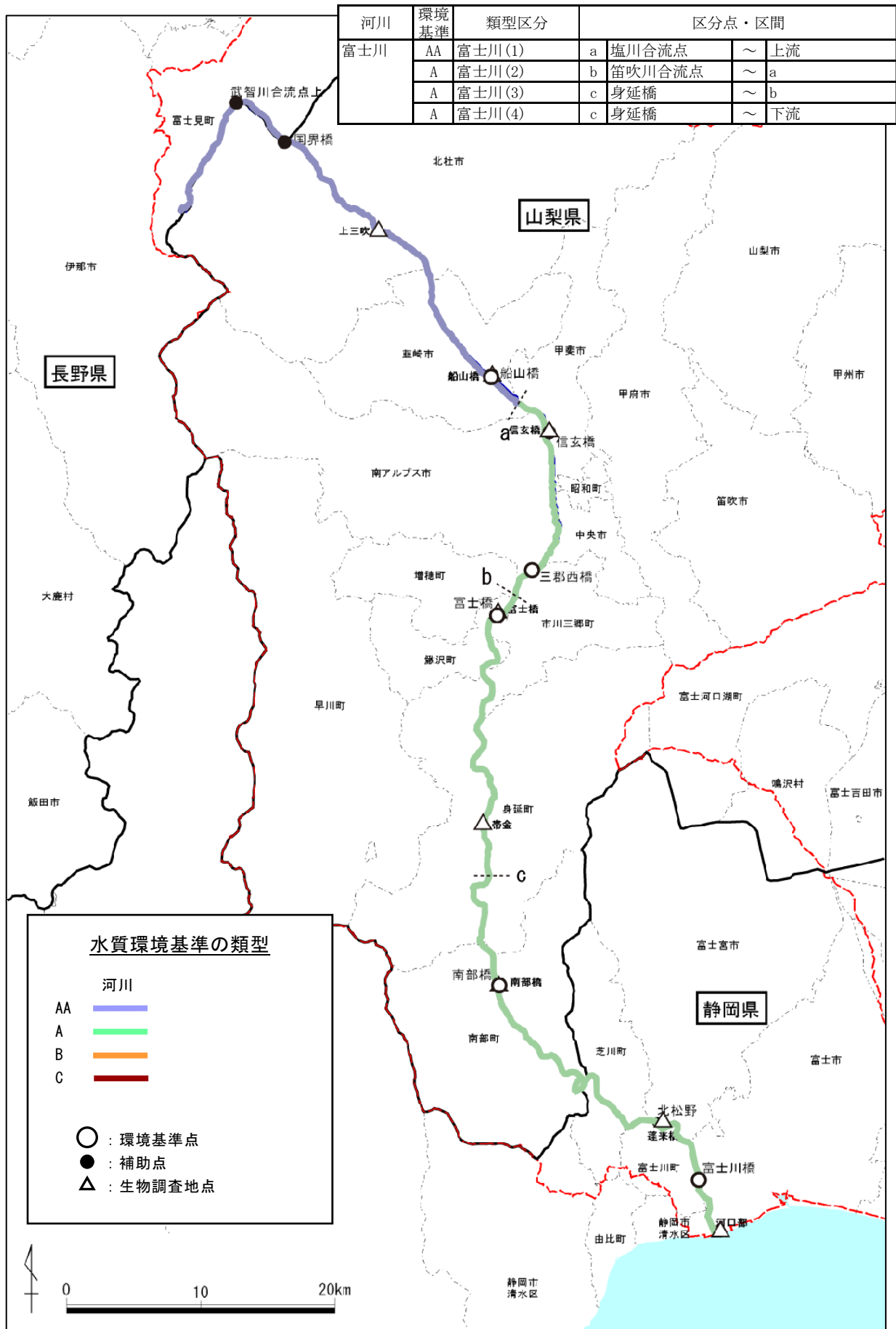


図 2.15 水質汚濁に係る環境基準の類型指定状況(富士川)

表 2.5 近年の水質の状況(富士川)

対象	水域	類型	環境基準点	年度	BOD					pH			DO				SS				大腸菌群数				
					最小値	最大値	平均値	75%値	基準	最小値	最大値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	
河川	富士川(1)	AA	武智川合流 点上	H16	<0.5	1.8	0.8	0.7	1	7.4	8.6	6.5~8.5	8.6	12	10	7.5	<1	10	3	25	150	7000	1800	50	
				H17	<0.5	0.6	0.5	0.5	6.9	8.4	8.4		12	10	<1		9	2	23		24000	4500			
				H18	<0.5	1.3	0.7	6	7.3	8.5	8.9		11	9.9	1		10	3	430		15000	4800			
			国界橋	H16	<0.5	0.8	0.6	0.6	8	8.3	7.9		13	10	1		7	3	130		13000	2200			
				H17	<0.5	0.9	0.6	0.6	7.6	8.4	7.5		13	10	<1		13	3	240		13000	4400			
				H18	<0.5	1.4	0.6	0.6	7.9	8.4	8.1		12	10	<1		20	3	170		24000	5900			
		船山橋	H16	<0.5	1	0.6	0.7	7.8	8.8	8.2	14	11	1	12	4	170	17000	6500							
			H17	<0.5	2.4	1.1	1.4	7.7	9	6.1	13	9.9	1	5	3	350	12000	3600							
			H18	<0.5	1.2	0.7	0.8	7.7	8.7	8.6	11	9.9	<1	5	3	490	79000	14000							
		富士川(2)	A	信玄橋	H16	<0.5	1.9	0.9	0.9	2	7.8	9.1	6.5~8.5	7.9	13	10	7.5	1	97	18	25	490	49000	14000	1,000
					H17	0.6	2.8	1.2	1.3	7.8	9.4	7.5		13	9.7	2		34	8	350		15000	4300		
					H18	0.7	1.5	1	1.1	7.6	9.1	6.6		12	9.7	1		10	4	240		49000	9600		
	三郡西橋		H16	<0.5	2.5	0.8	1	7.7	9.1	7.8	13	11		2	91	17		1300	24000	8000					
			H17	<0.5	4.2	1.7	2.2	7.5	9.7	8.9	16	11		2	18	6		9	30000	6300					
			H18	0.5	1.5	0.9	1	7.7	9.5	7.4	13	9.8		1	9	4		130	79000	15000					
	富士川(3)	A	富士橋	H16	0.5	2.8	1.4	1.7	2	7.6	8.1	6.5~8.5	7	11	9.4	7.5	5	52	13	25	1300	35000	19000	1,000	
				H17	0.9	3.9	2.3	2.8	7.5	8.2	7.4		12	9.2	4		18	9	3800		63000	19000			
				H18	0.5	2.7	1.4	1.7	7.4	8	7.6		11	9.3	3		57	11	4600		790000	100000			
	富士川(4)	A	南部橋	H16	<0.5	1	0.6	0.7	2	7.8	8.7	6.5~8.5	7.8	15	10	7.5	<1	160	18	25	490	79000	18000	1,000	
				H17	<0.5	3.8	1.4	1.5	7.8	9.1	8		12	10	<1		4	2	230		23000	5800			
				H18	0.5	1.3	0.9	0.9	7.7	9	7.4		14	10	<1		120	13	330		240000	25000			
			富士川北松 野	H16	<0.5	2.3	0.8	0.7	7.3	9.8	8.1		13	10	<1		59	13	2200		39000	15000			
				H17	<0.5	2.6	1.4	1.7	7.8	8.5	8.3		12	10	1		6	3	790		8600	3600			
				H18	0.5	1.9	0.9	0.9	7.8	8.4	8		12	10	<1		81	10	330		33000	10000			
富士川富士 川橋		H16	<0.5	0.7	0.6	0.6	7.5	8.5	8.2	14	10	<1	51	12	660	79000	13000								
		H17	<0.5	2.7	1.4	1.8	7.6	8.4	8.7	12	10	1	10	3	500	7900	2800								
		H18	0.5	1.4	0.8	0.9	7.6	8.6	8.2	12	10	<1	68	7	1100	49000	10000								

出典：公共用水域の水質測定結果(平成 16~18 年度)